

2019. 2. 12.

(1)

おい図書館

No.202

発行
代表
青木 和子
TEL 047-311-0886
松本市牧の原1-10-4
416

映画と本と図書館と in 鎌倉

報告 青木和子

2018年11月20日(火)~25日(日)、「四

書館」ともたち・鎌倉」の20周年記念事業として、鎌倉市川喜多映画記念館との共催で「映画と本と図書館とin鎌倉」が開催されました。「疎開した40万冊の図書」「オーナーの謎のリスト」「奇跡の人」の3本が毎日2本ずつ組み合わせて上映され、上映後には多面の方々によるアフタートークが開催されました。

「疎開した40万冊の図書」は「映画と本と図書館とin鎌倉」の20周年記念事業として、鎌倉市川喜多映画記念館との共催で「映画と本と図書館とin鎌倉」が開催されました。この3本が毎日2本ずつ組み合わせて上映され、上映後には多面の方々によるアフタートークが開催されました。

した首都カールブルの国立博物館入口に「自らの文化が生き続ける限り、その国は生き続ける」と記された垂れ幕が誇らしげに掲げられた。戦争は殺戮に加えて、例え異国の文化であっても人類共通の財産である文化遺産をも破壊する。ところが、第二次世界大戦を経ても、日本の貴重な文化財の多くが生き延びた。それは何故か？

金高監督は、戦事中に敵国である日本の文化財を救おうとして奔走した外国人達がいたことを知り、その謎に迫った。

第二次世界大戦末期、米軍の激しい爆撃によって、日本国内の多くの地域が壊滅してしまっただけ、空爆を免れた地域が奇跡のように存在する。神田神保町の古書店街もそのひとつである。

司馬遼太郎は著書「街道を行く」の中で、親自家のロシア人セルゲイ・エリセーエフ(夏目漱石に師

事。谷崎潤一郎や志賀直哉の作品を翻訳し、西欧に紹介。ハーバード大学東洋語学部長に就任。が神田神保町を爆撃目標から外すよう、マッカーサー將軍に進言したといわれている」と書いている。それは真実なのか？追求していくと、同様に日本の文化財を戦禍から守るために尽力したアメリカ人ラングドン・ウォーナーの存在に辿り着いた。

ラングドン・ウォーナーはハーバード大学考古学科を卒業後、ボストン美術館で岡倉天心の助手を務めた。その後来日し、茨城県五浦の日本美術院で天心の薫陶を受けた。後年、ハーバード大学附属美術館東洋部長に就任。同時期にハーバード大学に席を置いていたウォーナーとエリセーエフは親交があり、米軍による文化遺産保護のメンバーに2人は名を連ねている。ウォーナーは、日本の真珠湾攻

撃直前の1941年、イエール大学教授朝河貫一（優れた歴史家であり平和提唱者）と協議し、開戦回避のため、ルーズベルト大統領から昭和天皇への親書草案を作成し、米政府に提出した。しかし、内容の大幅な書き換えや親書電報の遅れで、その努力は実らず、日本は戦争に突入した。戦事中、ウォーナーは朝河の協力を得て、日本の文化施設への爆撃制限を記したリストを作成し、提出。そのために日本の多くの文化財が救われたといわれている。実に5に上るリストには、国宝から個人所蔵のコレクションまで網羅されていた。そのリストには、「平泉・中尊寺、長野・善光寺、日光・東照宮、出雲大社、鎌倉・大仏、伊勢神宮、厳島神社、延暦寺平等院、薬師寺、法隆寺、高野山の30の寺院、桂離宮、清水寺、

竜谷大学附属図書館、大阪市立図書館、東洋文庫、早稲田大学・仏教図書館と博物館、東京帝国大学図書館と文学資料編纂所書庫、上野公園、東京美術学校、東京帝室博物館、皇居、明治神宮、帝國ホテル、東大寺、能本城、首里城、慶応義塾大学アジア研究用図書館、京都帝国大学・東方文化学院図書館、三十三間堂、日本民芸館、団伊能私設コレクション、岩崎私設コレクション（静嘉堂文庫）、前田侯爵私設コレクション、細川私設コレクション（永青文庫）」等々が記されている。

映画では、米國国立公文書館、米國議会図書館に残された資料、イエール大学図書館、ハーバード大学図書館、ボストン美術館、台湾国立図書館等の資料をもとにして、国内外の識者や神田古書店街を知る人々、関係者など30名を超える証言者が戦事中の知られざる

史実を語っている。

金高監督は、故新藤兼人監督の「戦争は狂気である」という言葉を心に刻み、「戦禍の中で、狂気に立ち向かい勇氣ある行動をとった人々の真実を見つめ描きたい。文化財は、人類誕生600万のDNAを受け継がれた結晶である。その国の文化財の中には、人間の歴史、生活、生き方、考え方、すべてが詰まっている。文化を残すとは、人類の叡智、そして心を後世に継承する事だと思う。そういう思いで、この映画を作りたい。」と記している。

会場となった川喜多映画記念館は、海外映画の輸入、日本映画の発展に大きく貢献した川喜多長政、かしこ夫妻の旧居跡に、2010年に建設され、映画資料の展示、閲覧、Web検索、映画上映、講座、講演会、ワークショップなど多くのイベント

トを開催しています。

上映会の会期中、旧川喜多邸別邸（旧和辻哲郎邸）ではイラストレーター伊藤雅江さんの作品展が同時開催されていました。残念ながら鑑賞する余裕はありませんでした。が、記念館の展示スペースには懐しい映画の資料や国内外の名優の写真が多数展示され、往年の名画を懐しく思い起こす至福のひとつとなりました。



羨ましい！と思うばかり

ゆいの森あらかわを訪ねて

報告 神惺子

1月8日(火)、それが図書館であるらしいというぼんやりとした認識で、皆さんに付いて行きました。下町らしい町並みのくね

くねした道を辿って、やっと到着したその「森」は、5階建てのレンガ造り風の素敵で建物でした。ゆったりとした空間に思い思いに新聞を広げている姿が目に見え込んできて、思わず「毎日でも来たいなあ」とつぶやきました。しかし902席がほぼ満席となる日も多いそう、来館者が1日2000〜3000人と聞きました。

入館するや否や、「所在地を示す標識が無くて分かりにくいです。ね。」などと注文を付けた不機嫌な私たちを、職員の方はにこやかに案内して下さいました。

館長のご挨拶があり、図書館の紹介ビデオ上映と全体の説明の後、館内を隅々まで見学させて頂きました。が、通イのかかりの職員の方が「こんにちわ！」「ようこそ！」と声をかけて下さるのにちやうと戸惑いました。自分達がこの「森」を支えているという自負の表れな

のだと、後で納得しました。

78人の職員のうち38人が司書。けれど全員非正規。正職員は他の部署に移動することになるので、非正規であつても専門職としてここで働くことができるのだそうです。建設費90億円。準備段階から10年かかったそうですが、計画段階から職員の方々も関わったと聞きました。

区長の考えでもある大変ユニークな「読書を愛するまち・あらわし」宣言(起草委員長は柳田邦男氏)というものがあつて、職員の意向も反映されているそうです。専門職として、正規採用が出来れば良いのには、と思います。

工場跡地には「吉村昭記念文学館」をつくらうという発想から始まった複合施設「ゆいの木林」は荒川区の中央図書館に当たるようですが、他の4館と共に図書館を大切にする区長さんがおられることも、ま

に羨ましく思いました。



青木和子

素暗らーいと思つたのは「指定管理者導入は結局高くつく」事になるので導入はしないという方針です。東京23区内では指定管理者制度導入が増えている今、「区の直営を貫いている荒川区に敬意を表します。」



第26回

千葉県内図書館関係市民団体

連絡会

報告 青木和子

1月12日(土)、佐倉市西志津ふれあいセンターで開催。参加は

7団体(市川・市原・浦安・君津・佐倉・千葉・松戸)24名。

前半は常世田良さん(立命館大学教授)の講演。「図書館が

佐倉を救うー図書館には可能性がいっぱい」のテーマで、新図書館建設計画が進む佐倉の人達への多くの示唆に富む内容でした。

「自己判断自己責任の時代となったが、インターネットだけでは体系的網羅的な情報は質的量的に入手困難。市民一人一人の課題を解決できる「司書」という専門職が、必要な人材採用され、市民の情報収集を専門的にサポート出来る図書館が必要。因みに、アメリカでは図書館員を「ナビゲーター」と呼ぶ。

図書館は蛇口。蛇口から「知」という水を豊富に出すためには、優秀な司書が必要!」

後半は、各団体からの報告と意見交換。

次回は、半年後に市原で開催予定です。